

RubyWorld Conference 2024 開催報告

2024年12月5日(木)、6日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、16回目となる「RubyWorld Conference 2024」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ島根、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。



16回目を迎えた今回の国際会議では、Rubyに関するシステム開発事例や、教育・研究の紹介、最新技術の情報などを紹介する様々なセッションを通じて、より多くの技術領域でのRuby利用、研究に普及していくことを目指し、国内外28名が講演し、来場者数は2日間で延べ922名(詳しくは下記を参照)を数えました。

また、昨年に引き続き今年もRuby biz Grand prix・RubyWorld Conference・Ruby Prizeの3イベントが開催される日程を含めた1週間を「RubyWeek」と称し、Rubyに息づく「自由さ、たのしさ、コミュニティへの貢献」という価値観を表現するキャンペーンとして様々な関連イベントが開催され、近隣施設もRubyカラーにライトアップされるなど更なる盛り上がりを見せました。

オープニング・セレモニーで、まつもとゆきひろ 実行委員会委員長、丸山達也 島根県知事、上定昭仁 松江市長による挨拶をおこないました。



今年の基調講演では、1日目にMastodon gGmbH, Developer Relations LeadのAndy Piper氏に「The Social Web : Decentralization and building a better Internet」と題しご講演をいただき、2日目にRuby開発者のまつもとゆきひろ委員長が「Better Ruby」と題し講演をおこないました。



また、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰するRuby Prize 2024表彰式や、12月4日(水)に島根県松江市にて開催されたビジネスの領域においてRubyの特徴を活かし新たなサービスを創造・発信している企業を表彰するRuby biz Grand prix 2024において受賞された受賞企業のスピーチも行われました。そして今年、2024年4月よりスタートした松江市による新たな取り組み「Ruby City MATSUE 2.0」を記念して、フリー株式会社 CTOの横路隆氏をお招きし、「島根県出身エンジニアによる「スモールビジネスを、世界の主役に。」への挑戦」と題しご講演をいただきました。その他、国内外のRubyの技術者、企業関係者、教育機関関係者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が2日間の議論と、来年のRubyWorld Conferenceの開催意向を表明し、閉幕しました。

●来場者について 2日間延べ 922名(12月5日 500名、12月6日 422名)

来場実数 585名(県内348名、県外212名、海外25名) ※ 海外・・・国内在住の外国人を含む

- ・IT企業関係者 262名(県内109名、県外137名、海外16名)
- ・その他企業関係者 76名(県内43名、県外31名、海外2名)
- ・行政関係者 44名(県内40名、県外4名)
- ・研究教育機関関係者 160名(県内148名、県外10名、海外2名)
- ・一般(所属なし) 15名(県内6名、県外9名)
- ・講演者 28名(県内2名、県外21名、海外5名) ※ Ruby Prize 2024受賞者、ノミネーター・Ruby biz Grand prix 2024受賞企業スピーチ者を含む

●講演者について

- ・国内23名(企業関係者22名、一般1名)
- ・海外5名(イギリス1名、台湾1名、韓国1名、フィンランド1名、ロシア1名/企業関係者4名、医療関係者1名)